

[長崎県病院企業団通信]



ふくよか

2016冬号

■長崎県病院企業団本部
■平成28年1月発行

目次 CONTENTS

p2.....企業長より

地域の方に選ばれる病院作り！

p3.....話題の職員紹介

壱岐病院 米城看護部長に語っていただきました

**p4.....特集① 国保加入者のH27上半期の
受療動向について**

企業団病院の受療状況は？

p6..... 特集② 中堅職員研修

研修の様子を振り返ります

p7..... 地域から

富江病院 ～富江町の名所を紹介～

p8..... Break Time

[九州ラーメン紀行]

vol.
06

平成二十八年 年頭所感

地域の方に選ばれる病院作り！



企業長 米倉 正大

申

明けましておめでとうございます。

日本は平穏に新しい年を迎えることができました。昨年、世界はイスラム国により中東情勢が不安定化し、難民対応にヨーロッパ各国が揺れています。11月13日には、米国の9・11を思わせる同時多発テロ

がフランスで起こり、多くの犠牲者を出しました。平穏に生きるということが、いかに大事なことかと思われた人も多かったのではないのでしょうか。また、中国の南シナ海の人工島における軍事拠点構築などこれまでになかったことが世界を揺るがすようになり、世界の将来がますます予測しづらくなりました。

一方、医療界に目を向けると、ここ数年、どの施設でも医業収入が伸び悩んでい

ることに對し、支出の方は、人件費や経費の増に加え、8%の消費税が大きいのしかかり、病院経営が非常に厳しくなっています。今年4月に行われる診療報酬改定は、マイナス改定と言われており、病院運営にとっては厳しい一年になりそうです。

さらに、病院企業団の経営状況を見ると、平成27年度はあと3か月残っています。経営収支は非常に厳しくなっています。設立初年度を除き、連続して黒字を達成していますが、このまま経過するとマイナス決算になりそうです。数年前から続く地方での顕著な人口減少が大きく影響しています。これが要因ではありません。

実は、各離島で発生する全入院患者さん

の6割から7割の方が、本土の病院へ入院されています。企業団病院は近くに競争相手の病院もなく、住民の方に信頼してもらえさえすれば、自然と患者さんは増加しそうです。実際はそうなっていない。がんや心臓・脳疾患など高度医療を必要とする患者さんは仕方ないとしても、少なくとも地域の入院患者さんの5割以上は地元病院に入院してもらう努力をしなければなりません。

患者さんはフリーアクセス権を持っており、自分で病院を選ぶことができます。私たちの病院を選んでもらうためには、病院の姿勢として高度医療の追求ではなく、患者さん一人一人への接遇にかかっています。住民の方々に満足してもらえよう、もう一度全職員で考えることが大切です。

このような中で、国は新公立病院改革と地域医療構想の構築の二本立てで、医療改革を進めようとしています。昨年、2病院が統合し対馬病院が新しくスタートしました。病院企業団では各地域に拠点病院を作り、人口減の離島でも医療の質を低下させないという構想が出来上がり、全国に先駆けて公立病院改革は達成できました。あとは各拠点病院の地域で、先頭となって自分の役割を自覚し、地域医療構想をどこまで構築できるかにかかってきます。

すでに病院企業団では全ての拠点病院が電子カルテ化され、2年後にはDPCシステムにも参加できるように準備が進んでいます。DPCデータが出てくると、これまで以上に患者さんの流れと各地域の拠点病院の能力が見えてきます。医療から介護までを見据え、住民の方が安心して生活できるように地域医療構想を先頭に立って作り上げていく、スタートの年になってほしいと思います。

今年一年頑張っていきましょう。



話題の職員紹介

Vol.6

今回は、
吉岐病院の米城和美(よねき かずみ) 看護部長
をご紹介します



皆さまこんにちは。
平成27年4月から企業団病院に仲間入りさせていただきました吉岐病院の看護部長 米城和美と申します。

私は看護学校卒業後、平成25年の定年まで九州・関東10カ所の国立病院で勤務してきました。

退職後は、しばらくゆっくりしたいと思っていましたが、向原院長より人さらいに遭い、平成25年6月より吉岐市民病院で勤務することになりました。声をかけて下さったのが向原先生であったことと、今は亡くなられたのですが、親同様にお世話になった方が吉岐出身だったこと、また看護師なりたての頃に喘息の子供たちとキャンプに来た思い出があり、縁を感じて吉岐の住民になりました。

10年以上前、長崎医療センター（米倉先生が院長、向原先生が副院長の時代）で副看護部長として、電子カルテ導入・第1回健康フェスタ・初めての病院機能評価受審を経験させていただきました。その経験で組織を動

かすことを学んだ気がします。それで、向原先生とだったらまた面白いことをさせてもらえるのではないかと……。期待した通り、2年間はあっという間に過ぎていきました。

昨年の4月、企業団病院加入セレモニーで米倉企業長にお越しいただいたとき、私への第一声で「変わったね、すれ違う人がみんな挨拶をしてくれたよ。僕が企業長だと知らないと思うけど……」と言って下さいました。私は心の中で「ガッツポーズ」をしました。

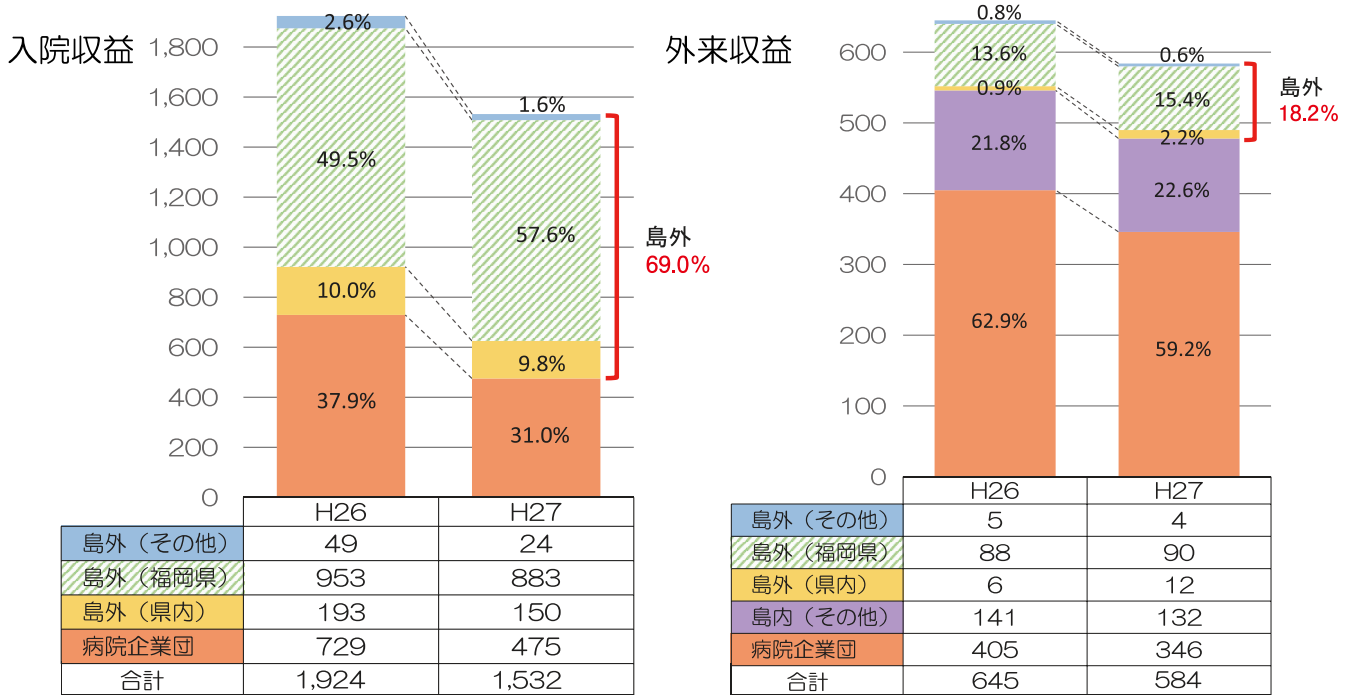
この度、今年度2回目の企業団看護部長会議を吉岐病院で開催する機会がありました。院長や事務の方々の協力を受け、看護部一同で精一杯「お・も・て・な・し」の気持ちを形に表すことが出来たと自負しています。

昨年10月の電子カルテ導入にも職員一丸となって取り組み、現在もまだまだ苦難だらけですが「大変だったけど、電子カルテになって医療（看護）の質が更に上がった」と実感できるようになりたいと皆で頑張っています。今後とも吉岐病院をよろしく願います。

地域住民にとって、魅力ある病院を目指しましょう！

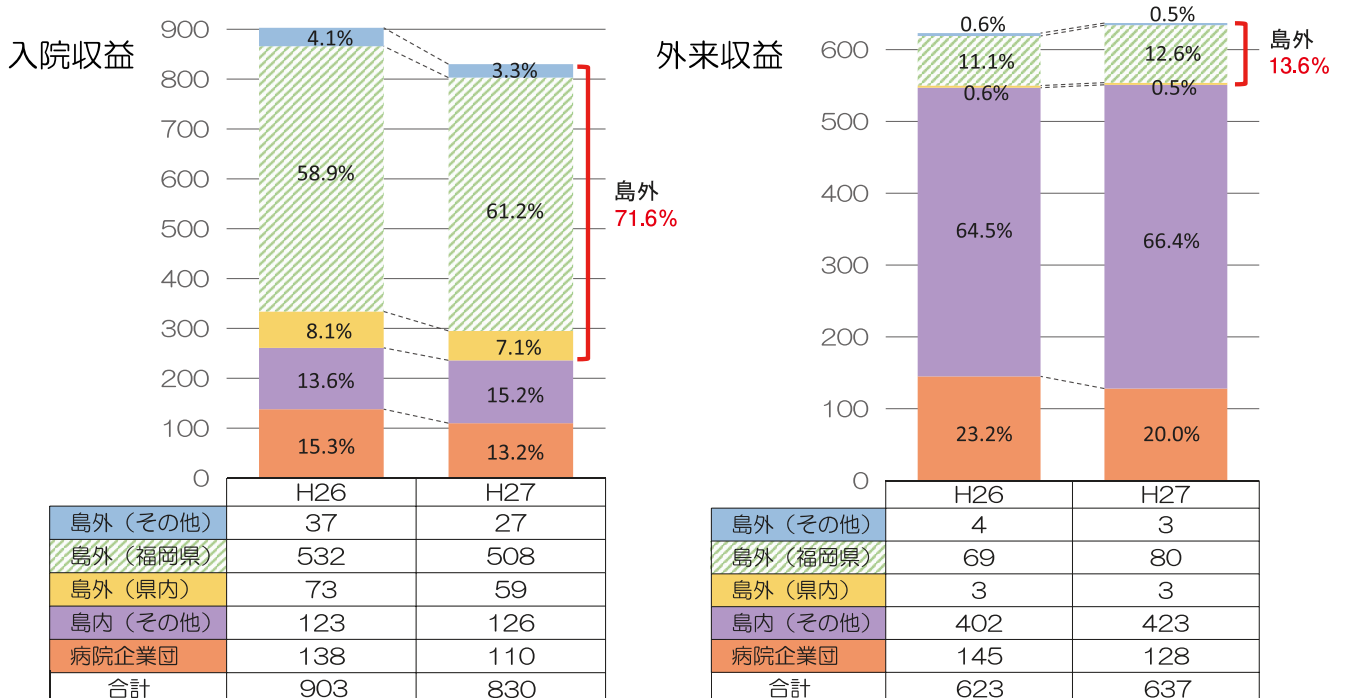


対馬市

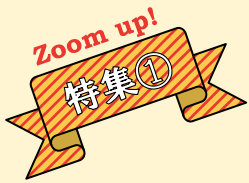


POINT 医療費全体が大きく減少する中で、H26と比較すると、入院は△6.9%、外来は△2.9%と島内病院が占める割合についても大きく減少しています。 単位：百万円

壱岐市



POINT 医療費全体が減少する中で、島内病院が占める割合についてH26と比較すると、入院は△0.5%、外来は△1.3%と減少しています。 単位：百万円

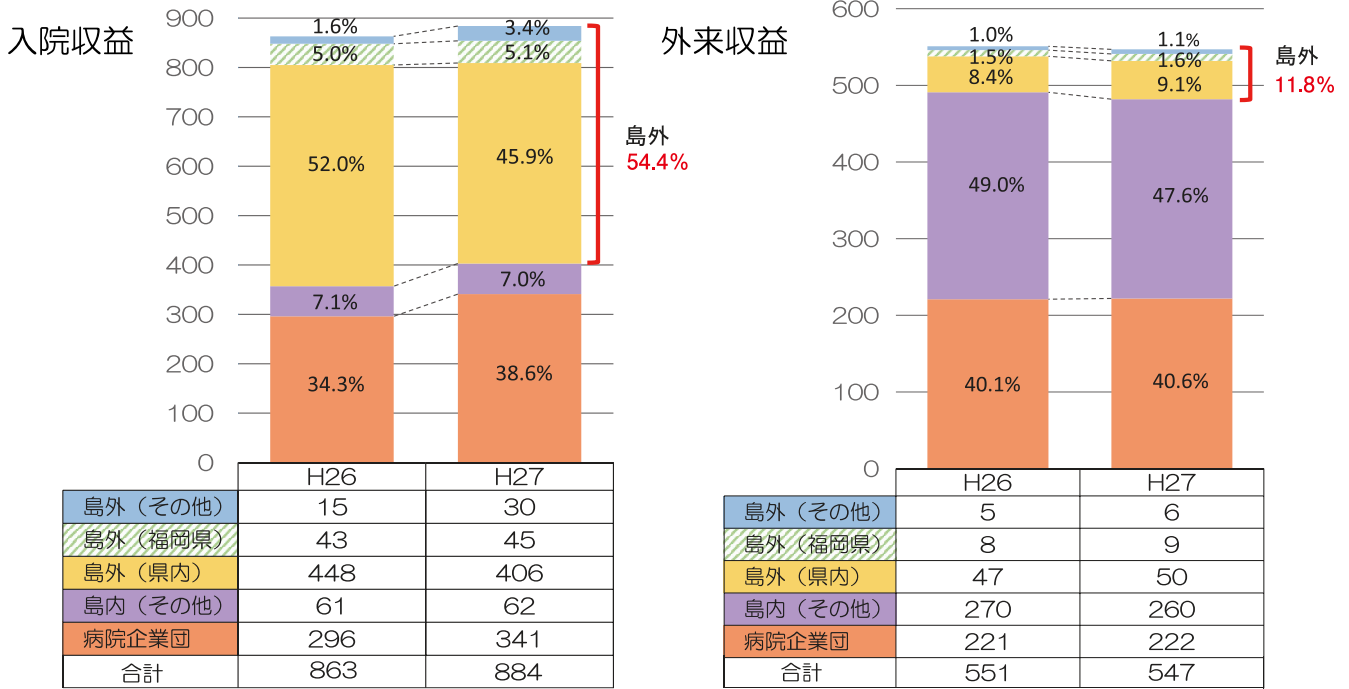


国保加入者のH27上半期の受療動向について

各離島の入院や外来受診による医療費は、どれくらい島外医療機関へ流れているのでしょうか？国民健康保険加入者の受療動向（金額ベース）を調べてみました。

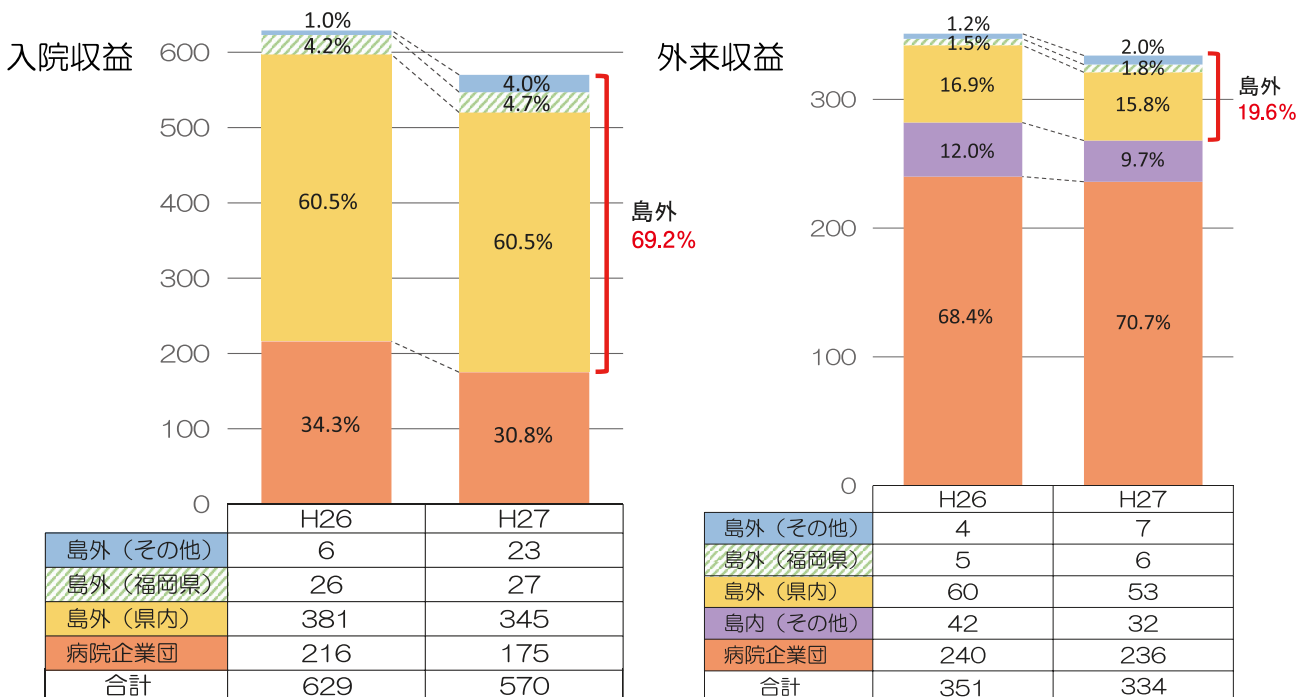
五島市

※五島市はH26、H27ともに4～8月分の比較となっています。



POINT 島内病院が占める割合をH26と比較すると、外来は△0.9%となっていますが、入院は+4.2%と大きく増加しています。 単位：百万円

新上五島町



POINT 医療費全体が減少する中で、島内病院が占める割合をH26と比較すると、外来の割合は変わりませんが、入院は△3.5%と減少しています。 単位：百万円



中堅職員研修

H27.11.24-25
in ながさき式見ハイツ

『なんだか堅苦しくてつまらなそう…』『他の病院の人と何を話せばいいんだろう…』 職員研修というものに対して、苦手な印象を持たれる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

企業団の職員研修は、他所属・他職種の人と一緒にアタマとカラダを動かし、楽しみながらコミュニケーションを図る内容となっています。11月24日から25日にかけて実施された中堅職員研修の様子を少しだけ紹介します！



『中堅職員に期待するもの』
対馬病院の川上院長に
講演していただきました



ワークショップのテーマは
『中堅職員として 地域住民に愛され
信頼される病院になるために
何ができるか』
どのグループも知恵を出し合い、工夫して
発表されていました。



限られた時間と資材で、
小道具まで作り上げる手腕は
さすがです！



精神医療センター 山中看護部長に
メンタルヘルスについてお話していただきました

参加する前は
どんな気持ち？



29/37人

参加してみて
どうでしたか？



楽しかった！
また参加したい！

35/37人

{ こんな感想をいただきました }

- 難しい内容を想像していたが、楽しい内容で心と体のストレッチができました。
- すごく楽しい研修でした。今まで交流を持ったことがない方々とコミュニケーションを図ることができて、本当によかったです。
- 仕事への行き詰まりを感じていましたが、少し前向きな気持ちになりました。
- モチベーション向上につながり、新たな気持ちで仕事に向き合える気がします。

(研修後アンケートより)

参加された皆様、寒いなかお疲れさまでした！いただいたご意見を取り入れ、さらに充実した研修にしていきたいと思えます。



{シリーズ}
地域から
Vol.5

五島市富江町（富江病院）

地域の見どころや病院での取り組みなどについて
紹介していただくコーナーです

福 江島・久賀島・奈留島などから成る下五島は、10年前の平成17年に合併して五島市になりました。

当時の人口は五島市全体で4万8千人、富江町は6千2百人でした。

江戸時代に福江藩から分藩した富江藩は、1万石以下の小さな藩でしたが、中央政界ではむしろ福江藩より上に立つこともあったようです。

明治になってからも捕鯨や珊瑚漁が盛んに行われ、イタリア人バイヤーが常駐したこともあるぐらいで、福江島では一番栄えた時期もありました。

しかし近年は、日本全国の地方都市が抱えている人口減少の問題が、町にも重くのしかかっています。

五島市の人口は現在3万9千人と、この10年で1万人近く減少し、富江町も4千8百人と、大正から昭和初期の町民1万5千人が嘘のように、当時の3分の1を切っている状況です。

それでも、釣り人にとっては聖地である**津多羅島**、はるか沖合の黒島までつながっているとされる溶岩トンネルの井抗（いあな）などの素晴らしい自然がまだ残っています。

また、インカのような精密な石組が残る陣屋石倉や、倭寇の堡壘（ほうらい）と言われる**勘次ヶ城**、**十八銀行のマーメイド**といったB級名所の枚挙にいとまがありません。

また、富江湾で獲れる「**うちわえび**」は、伊勢海老に負けないお味でありながら、お値段は10分の1とお手ごろですし、名産の「生からすみ」をのせたパスタは絶品です。

安納芋もトマトもアスパラも、野菜嫌いの人でも美味しいと言いますし、さすがに養蚕は消滅しましたが、迫害が続いている喫煙家の最後の砦となるタバコ農家も、富江にはまだたくさん残っています。



津多羅島



勘次ヶ城の倭寇像



十八銀行のマーメイド



うちわえび

富 江病院は昭和28年4月20日に町立病院として発足、昭和43年4月1日から旧離島医療圏組合に移管して、現在の企業団病院に至っています。

町の人口減少と高齢化のなか、55床の病棟をほぼいつも満床にして、できるかぎり最新の治療も取り入れています。

足りない部分は、同じ福江島の五島中央病院や、ヘリ移送する長崎医療センターの助けをお借りして、積極的な治療を進めている一方、介護施設と手を取り合い、高齢者の医療や介護の助けにも力を入れていきたいと考えています。

慢性的な医師・看護師不足、病院職員の高齢化、本部からの支援不足などもあって、なかなかままにはなりません、

職員一同 富江病院は頑張っています！

● Break Time : 「九州ラーメン紀行」



B級グルメの雄、ラーメン。今は海外でも人気とのこと。皆さんそれぞれこだわりがあると思います。今回は、筆者の独断と偏見で九州版をちょっとだけご紹介します。

地元長崎県については、いろいろと差しさわりがありますのでパスして、九州でラーメンといえば福岡、博多ラーメンからいきましょう。

店は山ほどあり、そのうち何軒かしか知らないのですが、これまで食べたなかで一番口に合ったのは「一蘭」。真っ黒のドンブリは期待感を高めてくれます。秘伝のタレをかけた細麺はあっという間に完食。少し足りないので、替え玉を追加してやっと満腹。ただ一つ欠点は、となりの席との仕切り。なんだかゲージで飼われたニワトリになったような気にさせられることです。

次は、久留米。ここも激戦地、レベルはかなり高いのではないのでしょうか。その中で一押しは「大砲ラーメン」。久留米を中心に10か所ぐらい店を出していますが、せっかくなら西鉄久留米駅近くの本店に行きたいところ。濃厚なスープは塩分が少々気にはなりますが、飲み干してしまいます。

続いては、熊本。かつては、「こむらさき」や「桂花」などが有名でしたが、紹介するのは、最近地元の友人に連れていってもらった「天外天」。熊本ラーメンといえば何とんでもニンニク。油で揚げたチップとパウダーのダブル攻撃で、胃袋もびっくり。翌日、大切な人と会う約束があるときは避けたほうがいいかもしれませんね。

さらに下って、鹿児島。鹿児島ラーメンといえば、野菜がたっぷりというイメージはありますが、実はよく知りません。九州紀行と言いながら、ゴメンナサイ。皆さん、知人や友人に聞か、ネットで調べて想像を働かせてください。

以上、3つ紹介しましたが、お隣、佐賀が抜けていました。道路沿いにラーメン店をよく見かけ、その人気のほどが感じられます。一押しは、県庁から2*ほど西にある「幸陽閣」。かつて、有名な「一休軒」（今は廃業）で修業をした店主がつくる、代表的な佐賀ラーメンです。近くでもあるし、一度味わってみませんか。

(文：副企業長 川良数行)

編集後記

明けましておめでとうございます。

今年は4年に一度のうるう年にあたり、一日得したような感じがします。みなさんはどうでしょうか？さて、今号の「地域から」は富江病院より記事を寄せていただきました。

富江病院でも情報誌を発行されていて、その中に「富江ふ彗」というキャラクターが登場します。

一体、何者なのか？？ちょっと気になりながら、いつも楽しく読ませていただいています。

それでは、今年もどうぞよろしくお祈りします。

(ふくよか編集担当)

ふくよか

表紙のはなし 稲佐山公園の猿

2016年の干支は「申」。申年には猿が当てられています。猿は山の賢者で、山神の使いと信じられています。申年生まれの特徴は「器用で臨機応変」とされています。

平成28年1月発行

編集・発行／長崎県病院企業団本部

〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階

TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759

E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp

URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索